

サステナブル経営の拠点開設

四日市事務機センター

関連するセミナーも開く



情報発信や支援展開

事務機器の販売や保守管理を手掛ける四日市事務機センター（本社四日市市日永西2の18の7、佐野智成社長、電話059・346・5411）は、企業の持続可能な経営の実現に向けて情報発信やサポートを行う事業に乗り出した。専門拠点として「サステナブル経営ラボ」を本社と伊賀市のグループ会社に設置した。ICT（情報通信技術）を活用した働きやすい職場環境づくりについて、自社の経験をロールモデルにアドバイスするほか、取引先の成功事例も紹介する。

働きやすい環境づくりへ



佐野智成社長

（四日市・榎田宏行）

サステナブル経営ラボで支援するのは、主に事務作業のデジタルトランスフォーメーション（DX）化やセキュリティ対策など。これらの課題解決に資する対策製品やサービスを紹介するほか、自社や取引先の事例を参考に、使い勝手や実際の導入成果なども示す。例えばバックオフィス部門に課題を抱える顧客に対しては、勤怠管理システムや経理のDX化に対応した製品サービスを紹介。佐野社長と従業員2人で対応する。

四日市事務機センターやグループ会社に整備された

体験型オフィスの社内見学に応じるほか、関連セミナーの開催も計画する。また、サステナブル経営に関する全国の事例調査・研究なども行う。

四日市事務機センターはことし、三重県の「令和6年度 三重のサステナブル経営アワード」を受賞した。佐野社長は「持続可能な経

営手法が第三者に評価され、自信につながった。サステナブル経営ラボを通じて、働きやすくて魅力ある三重県企業を増やしていきたい」と意気込んでいる。

同社は1974年設立。グループ連結売上高は約20億円（24年7月期）。グループ従業員は約60人（パート社員含む）。

